

審判員講習会マニュアル 第 8 版 2025 年 12 月現改比較表

ページ・項目	現（第 7 版）	改（第 8 版）	備 考
P18 9 1 塁のフ ォースプレイ （走者なし） (1) 1 塁塁審 ⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 走者が野手のタグを避けて、走者のベースラインから 3 フィート以上離れて走ったときは、ラインアウトの地点を右手で指さし『ラインアウト』“Out of the base path !” と発声したあと、走者にアウトを宣告します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 走者が野手のタグを避けて、走者のベースラインから 3 フィート以上離れて走ったときは、ラインアウトの地点を右手で指さし『ラインアウト』“Out of the base path !” または、『アウト・オブ・ザ・ベースライン』“Out of the base line !” と発声したあと、走者にアウトを宣告します。</li> <li>☆ 先に走者に向かってアウトを宣告し、次に「オフ・ザ・バッグ」のジェスチャーのように両腕を振って、『アウト・オブ・ザ・ベースパス』“Out of the base path !” または、『アウト・オブ・ザ・ベースライン』“Out of the base line !” と走者がベースパスから離れた事を選択、観衆に分かりやすく示す方法もあります。</li> </ul>	文言の追記

P38 20 投球動作の関連事項 (4) ワインドアップポジションからの塁への送球（けん制球）	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日本のアマチュア野球では、ワインドアップポジションをとった右投手が3塁（または3塁方向から回転して2塁）へ、あるいは左投手が1塁（または1塁方向から回転して2塁）へ踏み出して送球することは、投球動作を変更したとみなされ、ボークとなります。</li> </ul>	(全削除)	2026 アマ内規改正に伴う修正
P41 20 投球動作の関連事項 (8) セットポジションからの塁への送球（けん制球） ② 軸足を投手板からはずして塁へ送球する場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 投手板に位置した投手が、軸足を後方にはずしながら1塁（左投手）、または3塁（右投手）への送球動作（自由な足をステップせずに送球する）を開始することは、規則違反となります。投手板からはずした軸足が地面に着いてから、送球動作を始めなければなりません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 投手板に位置した投手が、軸足を<del>後方</del>にはずしながら1塁（左投手）、または3塁（右投手）への送球<del>する</del>動作（自由な足をステップせずに送球する）<del>を開始することは、軸足をはずす（軸足が浮いた）動き自体をもって軸足がはずれていると解釈されるとして、規則違反（ボーク）ではありません。となります。投手板からはずした軸足が地面に着いてから、送球動作を始めなければなりません。</del></li> </ul>	解釈変更に伴う修正
P43 20 投球動作の関連事項 (12) ボーク 【よくあるボークの例】①	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 捕手のサインを見ながらストレッチを開始したが、途中でやめる。</li> <li>☆ ワインドアップポジションとセットポジションの区別なく、投手板に触れてサインを見ている投手が、手を動かして顔の汗をふくなどの動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 捕手のサインを見ながらストレッチを開始したが、途中でやめる。</li> <li>☆ ワインドアップポジションとセットポジションの区別なく、投手板に触れてサインを見ている投手が、手を動かして<del>捕手に対してサインを</del></li> </ul>	文言修正

	作をすると、投球動作またはストレッチの中断とみなされます。	出す顔の汗をふくなどの動作をすると、投球動作またはストレッチの中断とみなされます。	
P44 20 投球動作 の関連事項 (13)その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ アマチュア野球において投手用のグラブは、縁取り、しめひも、縫い糸を除くグラブ本体（捕球面、背面、網（ウェブ））が一色であることが必要で、しかもその色は、白色、灰色以外のものでなければなりません。</li> <li>● 球審は、自らの判断または他の審判員の助言があれば、あるいは相手チームの監督からの異議に球審が同意すれば、違反しているグラブを取り替えさせます。</li> </ul> <p>(中略)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2015 年度の規則改正により、投手は、いずれの手、指または手首に何も（たとえば、救急ばんそうこう、テープ、瞬間接着剤、ブレスレットなど）つけてはならないことになりました。なお、このことについては、所属する団体の規定に従うこととしています。</li> </ul>	(全削除)	所属団体により 取扱いが異なる ため修正

<p>P45</p> <p>21 4人制メカニクスのポイント</p> <p>(1) 基本的なポイント⑭</p>	<p>⑭ 3塁コーチの肉体的援助に注意する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 走者の3塁触塁を確認した審判員は、3塁コーチの走者に対する肉体的援助に注意します。</li> <li>■ 球審または本塁をカバーした1塁塁審は、本塁でのプレイに備えながら、3塁周辺の状況を見ているようにします。そして、当該審判員が肉体的援助に気づかないときは、その審判員に代わって規則を適用します。</li> <li>■ コーチと走者が接触した場合、ただちに規則を適用するのではなく、コーチが走者の帰塁または離塁を“援助したかどうか”を審判員が判断します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 審判員が“援助していない”と判断した場合、妨害は宣告されず、ボールインプレイの状態は続きます。このケースでは審判員は“ナッシング”のジェスチャーをします。</li> <li>● 審判員が“援助した”と判断した場合、ボールデッドとして走者にアウトを宣告し、他の走者（打者走者を含む）は妨害発生の瞬間の占有塁に留め置きます。</li> </ul> </li> </ul>	<p>⑭ 3塁コーチのアシスト肉体的援助に注意する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 走者の3塁触塁を確認した審判員は、3塁コーチの走者に対するアシスト肉体的援助に注意します。</li> <li>■ 球審または本塁をカバーした1塁塁審は、本塁でのプレイに備えながら、3塁周辺の状況を見ているようにします。そして、当該審判員がアシスト肉体的援助に気づかないときは、その審判員に代わって規則を適用します。</li> <li>■ コーチと走者が接触した場合、ただちに規則を適用するのではなく、コーチが走者の帰塁または離塁を“アシスト援助したかどうか”を審判員が判断します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 審判員が“アシスト援助していない”と判断した場合、妨害は宣告されず、ボールインプレイの状態は続きます。このケースでは審判員は“ナッシング”のジェスチャーをします。</li> <li>● 審判員が“アシスト援助した”と判断した場合、ボールデッドとして走者にアウトを宣告し、他の走者（打者走者を含む）は妨害発生の瞬間の占有塁に留め置きます。</li> </ul> </li> </ul>	<p>2026 規則改正に伴う修正</p>
---	--	--	-----------------------